

Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

No. 86

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

医師法の一部改正と 共用試験の公的化の課題

医学教育推進講座
安元 佐和



令和3年5月21日に成立した「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法などの一部を改正する法律（令和3年法律第49号）」において、医師法の一部改正が行われ、医師法第17条の2に共用試験に合格した医学生は、臨床実習において医師の監督の下、医師として具有すべき知識及び技能の修得のために医業を行うことができることが明記され、令和5年4月に施行される。臨床実習における医学生の医業が法的に位置付けられたことによって、医学生が診療チームの一員として診療業務を分担し、実践的な診療参加型臨床実習を充実させることにより、卒後の臨床研修へのシームレスな移行を目指すものである。このことは令和4年改訂版の医学教育モデル・コア・カリキュラムにも明記された。

これに伴い、令和5年度からCBTと臨床実習前OSCEは、厚生労働省の定める公的試験として実施される予定であり、令和4年度の臨床実習前OSCEは、新共用試験の全国トライアルとして実施された。この公的な共用試験の実施は、これまで通り医療系大学間共用試験実施評価機構が担い、公的試験としてその妥当性、信頼性の検証が行われ、OSCEの課題数は10課題以上にすることが計画され、模擬患者及び養成者、評価者、試験実施責任者の認定制度が充足し、認定講習会や認定評価が順次行われている。これまで各大学が決定していた共用試験の評価基準や合否についても、共用試験機構が判定することとなる。また、追再試験は、機構主催で複数回行われ、受

験生は東京、関西で受験する必要がある可能性がある。

共用試験の公的化に向けては、法施行までの準備期間が短く試験の設計が十分ではないため多くの課題が山積しており、各大学の対応も遅れているのが現状である。福岡大学における公的化への準備状況としては、令和2年度の厚生労働省の実証事業モデルOSCEに参画し、本学の模擬患者6名が初回の認定を受けた。その内5名は2回目評価も終了し、正式に認定標準模擬患者として認定された。また、福岡大学は、標準模擬患者の養成団体としても認定され、養成に係る医師2名と看護師2名が認定標準模擬患者養成者となった。加えて、従来の学内OSCE 認定評価者には、公的試験の認定評価者としての切り替え講習会を受講していただいたが、認定評価者数は依然不足している。福岡大学の令和4年度臨床実習前OSCEはトライアルとして8課題で行い、学内評価者講習会の全評価者受講、課題漏洩対策、各試験室に2台のビデオ設置など公的化に向けた対応と、同時に新型コロナウイルス感染対策をしつつ、多くの教職員の協力のもと無事実施できたことに感謝申し上げたい。

今後の課題として、臨床実習前OSCEが10課題に増えた場合は、2日間を要すること、試験室、模擬患者、評価者の確保など、更に多くの課題が生じ、大学の経済的、人的な負担増となることが危惧されるため、公的なOSCEセンターの設置など、行政、共用試験機構、大学間の連携での課題解決が望まれる。

新風

new phase

令和 4 年 10 月 1 日付けで本学へ赴任、昇格された方に自己紹介をしていただきました。



福岡大学情報基盤センター
教授

瀬川 波子

2022年4月1日に福岡大学情報基盤センターのセンター長に就任し、10月1日付けで教授を拝命いたしました。

私は1991年に笹川医学奨学生として、中国の四川省から福岡大学医学部内科学第二講座（現心臓・血管内科学講座）に入局しました。指導教授は荒川規矩男教授（現名誉教授）で、指導教官は朔啓二郎教授（現福岡大学長）でした。翌年、朔先生の薦めとサポートを得て、福岡大学医学部大学院へ入学し、1996年に医学博士を取得しました。大学院卒業後は、朔先生のご指導のもとで研究を続け、2002年に内科学第二講座の助手に採用され、助教を経て、生化学講座の准教授となり、医学教育と大学院教育にも携わりました。2018年に福岡大学の在外研究員として、ハーバード公衆

衛生大学院（Harvard School of Public Health）に1年間留学し、帰国後、看護学科の「情報学」と「看護統計学」の講義を担当し、ICTを活用した教育を実践いたしました。

現在は、2022年度に共通基盤教育の科目として新設された「データサイエンス・AI入門」を担当し、教育データ構築・分析システムを開発・運用し、学生支援のための学習分析（Learning Analytics）を行っています。これからも、福岡大学全体の教育ICT化の推進、Society 5.0を支えるデータサイエンス・AI人材の育成、社会変化に対応する研究・教育情報環境の整備などへ、全力を尽くしたいと考えております。

今後とも皆様のお力添え、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



心臓血管外科学
准教授

桑原 豪

2022年10月1日付けで、和田秀一教授の御推挙により、福岡大学心臓血管外科学教室の准教授を拝命いたしました。私は2004年福岡大学を卒業し、新臨床研修医制度初年度であり、1年目を福岡大学筑紫病院、2年目を福岡大学病院で研修させていただきました。その後、田代 忠教授が主宰されておりました心臓血管外科学教室に入局いたしました。2009年より大学院にて小玉正太教授の指導の下、血管新生およびリンパ管新生の研究をさせていただきました。2013年から2年間米国イェール大学血管外科（Alan Dardik教授）へ留学し、静脈グラフトを動脈環境においた際の細

福岡大学医学会第87回例会

■日時／令和 5 年 2 月 15 日（水）18:00～19:00

■場所／医学部 RI 講義棟 3F 大講堂

【進行】集会幹事 川浪 大治

1) 開会の辞 集会幹事 川浪 大治

2) 会長挨拶 医学部長 小玉 正太

3) 新任講演（講演25分、質疑応答5分）

講演者…小川 正浩（臨床検査医学 教授） 座長…小玉 正太
「臨床心臓電気生理と不整脈治療」

4) 福岡大学医学紀要49巻 優秀論文賞授与式

👑 山崎 裕太郎（整形外科）👑 長友 雅也（整形外科）

医学生業績報告書「JAMeS」優秀賞授与式

👑 牧野 響香 鍵本 千紘 家木 駿介 清水 颯希 篠原 麻紀 池田 諭治
「糖尿病治療薬とCOVID-19には関係があるのか？ JAMeS 5(1): 19-38, 2022」

5) 受賞論文の要旨講演（講演10分、質疑応答含む）

講演者…山崎 裕太郎 座長…山本 卓明

「The Efficacy of Add-on Igaratimod for Patients with Rheumatoid Arthritis who Inadequately Responded to Methotrexate」

講演者…長友 雅也 座長…山本 卓明

「Return to Sports and Physical Activities after Minimally Invasive Distal Linear Metatarsal Osteotomy for Hallux Valgus」

6) 閉会の辞 集会幹事 川浪 大治



講演された先生方と（左から、川浪先生、小玉会長、牧野さん、長友先生、山崎先生、山本先生）

胞外マトリックスに関する研究を行いました。帰国後は済生会福岡総合病院で胸部大動脈瘤・大動脈解離、弁膜症や冠動脈疾患などの成人心疾患手術の研鑽を積み、帰学いたしました。近年、高齢化に伴い大動脈疾患が急増しております。当教室は全国でも珍しく、より低侵襲なステントグラフト治療から開胸開腹の手術まで独自で完結できる教室です。その特徴を活かして、高齢でさまざまな合併症を抱えた患者さんに適したベストな治療を提供できるように日々心がけております。福岡大学病院の発展と人材育成に微力ながら尽力して参りたいと思います。ご指導賜りますよう宜しくお願いいたします。



精神医学
准教授
堀 輝

この度、川崎弘昭教授のご推挙により、令和4年10月1日付けで福岡大学医学部精神医学の准教授を拝命致しました。私は平成15年に産業医科大学を卒業し、大学病院、精神科病院で幅広い精神科臨床を学び、さらに専属産業医としての複数の企業での勤務経験もあります。最近では気分障害や統合失調症患者の診療を中心に、リエゾンにも力を入れて他科のスタッフとの連携も重視しながら診療を行っております。また統合失調症や気分障害の治療ガイドライン作成メンバーとしても精力的に活動しております。研究面では精神疾患患者の就労機能や復職に関して、薬理学的、生物学的、リハビリテーションなど多方面からのアプローチによる個別化治療戦略をテーマに精力的に取り組んでまいり、2018年には豪州アデレード大学にも留学する機会をいただきました。教育面としては、学生教育、臨床実習における教育、若手医師教育と幅広く行っていました。特に双方向性を考えた講義や実習を心がけるなどの工夫を行っていました。

福岡大学の発展に寄与できるように微力ながら努力してまいります。今後とも、ご指導賜りますよう宜しくお願いいたします。



看護学科
准教授
有田 久美

2022年10月1日付けで、福岡大学医学部看護学科准教授を拝命いたしました。私は当看護学科の前身である福岡大学附属看護専門学校を卒業、看護師、保健師の免許を取得後、福岡大学病院へ入職しました。看護師として臨床経験を積んだ後、福岡大学附属看護専門学校へ専任教員として異動、その後当看護学科新設後に教育職に身分換えし、専門領域として老年看護学を担当しています。また、その間に国際医療福祉大学大学院にて学位を取得し、高齢者の服薬に関するセルフケアや看護アセスメントについて研究をしています。2017年には、長期在外研究員として韓国の高

麗大学看護学部へ派遣され、日本・韓国の高齢者看護について比較研究を行い、教育・研究の視野が広がる体験をさせていただきました。現在は、大学病院の看護師の研究能力向上のため、看護部と協働しながら研究セミナーや研究指導などに取り組んでいます。今後も微力ではありますが、福岡大学の発展に貢献できるように尽力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



筑紫病院内分泌・糖尿病内科
准教授

阿部 一郎

令和4年10月1日付けで、福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科准教授を拝命致しました。

福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科小林邦久教授、福岡大学病院内分泌・糖尿病内科川浪大治主任教授をはじめ、ご支援頂きました多くの皆さまに大変感謝致しております。

私は、平成16年に九州大学医学部を卒業後、九州大学大学院医学研究科病態制御内科学講座に入局し、主に内分泌学分野で、臨床・研究を行ってきました。平成26年から福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科に勤務させて頂いております。所謂、古典的内分泌学全般の臨床を得意としており、日本内分泌学会、日本臨床内分泌病理学会、日本間脳下垂体腫瘍学会の学術評議員としても活動しております。加えて、日本内分泌学会及び日本糖尿病学会の専門医・指導医でもあり、学生・研修医・助手の教育にも力を入れています。研究に関しては、様々な内分泌疾患や糖尿病に関する臨床研究を行っているだけでなく、基礎研究についても、福岡大学薬学部などと共同研究を行い、遺伝性難治性副腎疾患の新規治療検討などを進めています。また、令和元年から2年にかけて、福岡大学在外研究員として、Griffith University Department of Cancer Molecular Biology/Pathologyに留学させて頂きましたが、その際に研鑽を積んだ、病理学・分子生物学を用いた内分泌腫瘍研究についても継続して行っています。

今後も臨床・研究・教育に邁進し、真のPhysician Scientistを目標に、福岡大学筑紫病院、更には福岡大学の発展に寄与できるよう尽力したいと思います。ご指導の程、宜しくお願い致します。

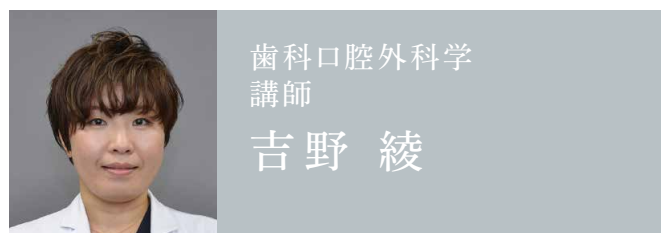


脳神経外科学
講師

竹本 光一郎

令和4年10月1日付けで安部 洋 教授のご推挙により、福岡大学脳神経外科講師を拝命いたしました。私は平成15年に福岡大学を卒業、同年脳神経外科教室に入局し、福大病院、九州医療センターで脳血管内治療の修練を積みしました。専門医取得後、平成23年からの2年間は京都大学 脳神経外科・カルフォルニア大

学ロサンゼルス校 放射線科へ留学の機会をいただき、最先端の脳カテーテル治療を学ばせていただきました。帰国後は佐世保中央病院に9年勤務し、脳外科全般の包括的地域医療に従事して参りました。現在は脳動脈瘤、脳腫瘍、虚血性脳血管障害のカテーテル治療に専従し、部門のチーフとして後輩指導・医学生教育に取り組んでいます。脳血管内治療は過去20年間に飛躍的進歩を遂げ、脳神経外科の主要部門となりました。高度に専門化する一方、グローバルな視点で本質を見据えた診療が必要と考えています。外科チーム・血管内チームの二人三脚で「安全で確実な治療」をモットーにバランスの良い医療が提供できるよう尽力したいと思います。各診療科の先生方におかれましては、今後、患者さんの事など相談させて頂くことも多いかと存じます。何卒、ご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。



歯科口腔外科学
講師

吉野 綾

近 藤誠二教授のご推挙により歯科口腔外科学講座講師を拝命いたしました。私は九州工業大学情報工学部を卒業後、会社員生活を経て新潟大学歯学部にて学士編入し、卒業後11年間島根大学医学部歯科口腔外科学講座で勤務、2018年4月に福岡大学医学部歯科口腔外科学講座に入局しました。医局をはじめ各科の先生方やスタッフの皆さんに温かく支えて頂き、おかげさまで充実した毎日を送っています。離島を含む地方大学病院で学んだことの一つが他科、多職種との協力、地域病院や行政との連携の重要性です。福岡大学着任後のコロナ禍ではECMOセンターとの共同臨床研究に取り組み、連携により生み出される可能性の素晴らしさを再認識しました。臨床では、自科特有の疾患の治療に加え、外科治療や化学療法における周術期の口腔衛生管理、頭頸部疾患治療で失われた口腔機能の再建など、他科部門との連携治療の充実引き続き注力していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



病理部
講師

古賀 佳織

令和4年10月より福岡大学病院病理部講師を拝命いたしました。私は福岡大学医学部を卒業し、福岡大学病院麻酔科での初期研修終了後、福岡大学病院皮膚科に入局しました。大学院への進学時、病理学教室で行った研究で学位を取得し、病理診断についても研鑽を積みました。その後、当時札幌市にあった皮膚領域の病理診断を行う専門施設「札幌皮膚病理研究所」で研修し、同施設に就職しました。研修中には皮膚科専門医を取得し、往診業務を中心に皮膚科診療にも携わりました。約2年間の

北海道生活後、福岡大学病理学教室に入局し、病理専門医を取得、現在に至るまで病理診断業務に従事しています。濱崎部長、濱田副部長を筆頭に今年度から新体制となった病理部で、患者様のためになる、よりよい病理診断ができるよう、日々努力したいと思っております。今後とも、ご協力・ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



臨床検査部
講師

小柳 尚子

令和4年10月1日付けで小川正浩教授のご推挙により、福岡大学病院臨床検査部講師を拝命致しました。私は平成15年に福岡大学医学部を卒業し、心臓・血管内科学に入局いたしました。循環器内科で臨床研修を積みながら、大学院では小川教授をはじめ、三浦教授、朔学長のご指導のもと、自律神経と心室細動との関連性やメタボリック症候群におけるエゼチミブの効果についての研究をいたしました。その後は多くの先生方にご指導いただき、またコメディカルの方々にも多くのご協力をいただいて、福大病院・福大筑紫病院では循環器内科学、特に心エコーを専門に学ばせていただきました。また市中病院ではそれらに加えて、一般臨床医として診療に携わり、地域医療についても学ばせていただきました。これからは、さらに臨床検査医としても精進し、また微力ながら福岡大学医学部・病院の発展のために尽力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



内分泌・糖尿病内科
講師

横溝 久

2022年4月1日付で川浪大治教授の御推挙により、福岡大学病院内分泌・糖尿病内科講師ならびに副診療部長を拝命いたしました。私は2005年に高知大学医学部を卒業後、九州医療センターで初期研修を行い、九州大学第3内科に入局して内分泌代謝・糖尿病内科医として臨床経験を積みました。同大学院へ進学して糖尿病合併症の基礎・臨床研究を行い、学位を取得しました。その後、2015年より米国ハーバード大学医学部ジョスリン糖尿病センター血管生物学部門へ留学し、約4年半の留学中に糖尿病合併症保護因子の同定とその作用機序の解明に向けた研究を行いました。帰国後は九州大学病院内分泌代謝・糖尿病内科で診療、教育、研究に従事して参りました。この度、特に糖尿病性腎症の診療・研究が活発な福岡大学に勤務する機会をいただき大変光栄に存じます。これまで培ってきた経験を活かしながら福岡大学の発展に貢献できるように努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



当皮膚科学教室は昭和47年に開講し、2014年から3代目として現在今福信一教授が教室を主宰しています。当教室は『患者を幸せにする皮膚科医』になることを目標に医局員一同、日々の臨床や研究、教育に努めています。

医局業務では、デジタル化を推進しており病理スライドのデジタル化やカンファレンスのオンライン化などで効率よい業務を追求しています。

日々の診療では様々なcommon diseaseから、悪性黒色腫をはじめとする皮膚悪性腫瘍の外科的治療、免疫チェックポイント阻害薬による化学療法などの専門的治療を行っています。また新しい治療を発見する目的で治験も多く行っています。たとえばアレルギー疾患のアトピー性皮膚炎では新規で認可された生物学的製剤2剤をはじめ、JAK阻害薬の登場で治療選択肢が増え、ここ数年でガイドラインが間に合わないほど変化しています。これらの薬剤はいずれも当科でも治験を行っています。

また研究では、乾癬において2010年に立ち上げた乾癬の前向きコーホートである福岡大学乾癬レジストリを継続しており、現在では1600人近い患者が登録され多くの業績を生み出しています。さらに大きなレジストリとして西日本地区の有志と西日本乾癬レジストリを主宰し日本の乾癬

診療の未来を拓くべく邁進しています。現在の多様な乾癬治療において最適な治療を探索しています。またヘルペスウィルス抗体疫学やDNA診断、レックリングハウゼン病などの遺伝性疾患の遺伝子診断を目標としたエクソーム解析も行っています。

当科の目標として、専門医制度による入局数に制限がかかるなか、皮膚科に入局したからには、医局員自身が幸せになり、そのうえで患者を幸せにする皮膚科医になるよう教室で育成してまいります。かつ福岡大学医学部の発展につながっていくよう教室員一同努力していく所存です。今後ともご指導とご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。



第49回 医学部慰霊祭

第四十九回福岡大学医学部解剖体慰霊祭は、本学教職員と学生二百余名が参列し、令和四年十月二十二日(土)午後二時から福岡斎場において厳粛に執り行われました。新型コロナウイルス感染症感染予防の観点から、ご遺族並びにご来賓の方々にご列席いただくことができなかったことは誠に残念でございます。

今回祀られた霊位は、学生の医学教育の目的で、系統解剖のために献体された三十五柱、病院で死去されて病因究明のために病理解剖を御承諾頂いた十二柱、合わせて四十七柱でした。

献灯献花の後、厳粛な雰囲気につつまれて慰霊祭は進行し、小玉正太医学部長は祭詞の中で、医学の発展のために欠くことのできない解剖にご献体頂いた霊位とそのご遺族、さらに、ご協力を頂いた各種関係機関に敬意と謝意を表されるとともに『私どもは、日々花を供え、香をたいて四十七柱の科学に対する貴きご献身を偲び、敬意と感謝の念を表していま

すが、本日、皆様方の崇高な御遺志を今一度思い起こして、今後益々、勉学、研究に励み、人類の幸福と福祉に貢献できますよう努力することをお誓い致します』と新たな誓いを披瀝しました。



教室だより
Letter from a classroom



呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学

私たちの教室は第二外科として初代教授犬塚貞光先生のもと発足。2代目白日高歩教授時代に2006年10月呼吸器・乳腺内分泌・小児外科となり、2008年に3代目岩崎昭憲教授、2021年第4代として佐藤が引き継いでいます。私たちの関連施設は九州一円に17施設あり、100例以上肺癌を施行している施設2（国立福岡東医療センター・佐賀大学胸部・心血管外科の呼吸器グループ）のほか、地域の中核病院としては鹿児島市内にいまきいれ総合病院・久留米市内に聖マリア病院・国立大牟田病院・都城医療センターがあります。数々の難手術に果敢にとりくむ伝統の福岡大学呼吸器外科教室は2006年から肺移植を開始したほか、九州で初めてダビンチXiシステムを導入して肺がん手術を開始するなど低侵襲外科でも進取にとんだ施設です。現在当科は呼吸器グループ（主任教授1名、准教授1名、講師1名、助教5名、医員2名）乳腺グループ（准教授1名 助教1名）小児外科グループ（准教授1名 助教1名）の大所帯です。令和3年10月より白石武史准教授が臓器移植医療センター正教授に昇任され、通算の肺移植件数は64例となりました。外科教室の活動のバロメータの一つに手術症例数、特に肺癌手術症例数があります。こちらは毎年15%程度の伸びで令和4年は158例でありました。肺がん診療で私どもが最も力を入れている点は肺癌の診断・治療を1日で低侵襲にすまずことです。2020年12月から新設されたハイブリッド手術室を駆使し、発見された小型肺がんは小さいうちに精確に小さく切除できる体制を整えました。進行がんについても低侵襲な単孔式胸腔鏡手術の導入のほかダビンチによる血管形成・気管支形成など文字通り最

先端の治療を実現しています。教育面では各種セミナーやハンズオンの開催を行っているほか、ダビンチに関しては九州地方初のメーカー指定の見学施設であり、ライセンス取得希望の多数の外科医を年間受け入れています。研究面では私が福岡にまいりまして4年経過してこちらで始めた研究がぼちぼちと論文にまとめられるようになってきました。また永年開発にかかわってきました国産の空気圧駆動手術ロボットも臨床第一例を早ければ令和5年度承認後早々に施行するよう準備を進めています。福岡大学の素晴らしいところは獣医師であられる田中教授がセンター長をつめられるアニマルセンターがあるなど、恵まれた環境にあることです。また令和4年秋から低線量CTでの肺がん検診を福岡大学病院で開始していただき、地域の肺がん診療の質の向上に取り組んでいます。一層研究に、臨床に、教育にも邁進してゆきたいと考えておりますので皆様におかれましては従前の通りご支援のほどなにとぞお願い申し上げます。



学位取得

次の方は、福岡大学より博士（医学）を授与されました。

課程修了による学位取得者
[令和4年9月13日]

- ・ 長城 晃一（病態構造系専攻）
- ・ 高 良太（病態構造系専攻）
- ・ 林 優佳（病態構造系専攻）
- ・ 橋口 志保（病態機能系専攻）

論文提出による学位取得者
[令和4年10月6日]

- ・ 梶谷 竜路（先端医療科学系専攻）
- ・ 有永 豊識（先端医療科学系専攻）
- ・ 平川 豊文（先端医療科学系専攻）
- ・ 田中 由貴（先端医療科学系専攻）
- ・ 百武 光一（リハビリテーション部 作業療法士）
- ・ 中森 絵里砂（福岡中央病院麻酔科）